日本病院会ニュース

発行所 一般社団法人 日本病院会
〒102-8414
東京都千代田区三番町 9-15
TEL 03(3265)0077
http://www.hospital.or.jp/
・年間購読料 6,000円（送料込）
・購読料は会費に含まれます
・毎月10日、25日発行
発行人　相澤孝夫

「病院総合医」を育てよう！

日本病院会副会長　**末永 裕之**

特別寄稿

日本病院会はこのほど、会員病院からの「病院総合医」育成プログラムの申請受付を開始した。委員会による審査を経て明年2月頃に専修医の登録、同4月より原則2年の研修という2期目の病院総合医育成がスタートする。専門領域の細分化と患者高齢化により、これからの病院には不可欠なものとなる病院総合医。申請受付の開始に際し、同事業を担当する末永裕之副会長に寄稿いただいた。

2期目の募集を開始

日本病院会が認定する「病院総合医」研修事業は、平成30年度を初年度として本年4月から、91施設が育成プログラムの認定を受けて、218名が参加して始まった。そして現在は次年度の育成プログラムの募集を行っている。

新専門医制度が開始されたが、私たちが期待する病院総合医は育たず、医師の地域偏在、診療科偏在も解消されないことが明らかとなった。だからこそ今求められている「病院総合医」を日本病院会で育成していく意義を強く感じている。

地域、病床規模の大小により病院総合医の果たす役割は様々であるが、高齢者の有病者が増えるなか、広がるチーム医療において中心となってチームを纏め、地域包括ケアにも配慮できる病院総合医は重要である。セカンドキャリアとして多くの方に病院総合医を目指していただきたい。

去る6月28日には第68回日本病院学会で「育てよう病院総合医」のシンポジウムを開催した。

シンポジウムでは済生会熊本病院包括診療科部長園田先生が「病院総合医が実践する多職種協働のチーム医療と働き方改革」の演題で、ホスピタリストとしての病院総合医の働き方を示され、相澤病院院長田内先生は「病院総合医ー相澤病院での役割と位置づけー」で専門領域を極める医師とセカンドキャリアとしての総合医をある時期に選択させると発表された。石川県立中央病院院長岡田先生は「病院総合医の可能性・魅力ある病院総合医（資格）とは」、洛和会丸太町病院救急・総合診療科部長上田先生は「小病院における病院総合医育成の試み」をそれぞれお話しになったが、病院総合医にも病院ごとに様々な働き方があることが示された。

病院総合医の働き方や院内での役割にはさまざまなバリエーションがあるが、病院総合医としての基本的な事項を包含したプログラム研修を修めて日本病院会認定病院総合医と認定されれば、今まで以上にそれぞれの場所で病院総合医として活躍し、後進の指導にもあたれるものと思われる。

8月3日に開催された平成30年度病院長・幹部職員セミナーでは「育てよう病院総合医ー日本病院会認定病院総合医ー」をテーマとしたシンポジウムが開催された。

JA愛知厚生連海南病院の浅井先生にはプログラム評価委員の立場から病院総合医育成プログラム基準に関して講演して頂いた。旭川赤十字病院院長牧野先生は「病院総合医に期待するもの」としてその役割を①ホスピタリスト②総合（内科）医③将来の病院管理者としてリスペクトされる医師像だと示された。聖路加国際病院の有岡先生には外来機能に特化したゲートキーパー機能とホスピタリストとしての縁の下の力持ち的な機能があること、そして総合医としてベーシックだけではなくジェネラル・アドバンストも必要であることを示して頂いた。美濃市立美濃病院院長で少人数で地域医療を必死に支えている阪本先生からは、医師が減少していく中で専門医全員が専門医の仕事をしつつ総合医として当直等業務をを支えていることを願っている。

現状を紹介して頂いた。

参加者からは日本病院会の認定基準が甘いのではないかとの質問もあったが、基本的に厳しすぎる認定にはしないというスタンスで始めており、しかし臨床研修指導医講習会の受講等は必須条件としている。もう既に専門医を持った上で病院総合診療医的な役割を果たしている医師は多いと思われるが、一定の基準のプログラムに沿った研修を修め、基準を満たしていると判断されれば病院総合医として認定される。認定を受けた先生には自信を持って日本病院会認定病院総合医としてチーム医療の中心となってご活躍頂きたい。また、認定者が多くなって来れば、認定者へのスキルアップの講習会や更新制度等も検討したい。

これからの超高齢社会を迎える日本の地域医療・病院医療において医療の質の向上を目指すためには、医師のセカンドキャリアとしての病院総合医の存在は欠かせない。

日本病院会認定病院総合医育成事業に多くの病院が参加して、沢山の病院総合医が輩出されることを願っている。

台風21号および北海道胆振東部地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます

一般社団法人 日本病院会
会長 相澤孝夫

無影灯

先日、中学校と高校のクラス会が別々の日程で開かれた。1カ月に2度、台風の合間をぬって帰郷した。小、中、高と一貫教育だった私は、息子に参加者はみんな一緒じゃないのとからかわれたが、二つの会とも参加したのは私を含め2名だけで他は違う参加者だった▼中学校の担任が75歳という節目の年で、今年還暦を迎える歳の私たちと共にお祝いをしたいとの事で十数年ぶりに集まった。当時のうら若き担任は、〝おばあさん〟と言うにはほど遠く、何事にも前向きで今でも若さ全開であった。逆に私たちは、名前と顔を思い出すのに時間のかかった人もいた▼話しているうちに、人の縁とは不思議なもので息子同士が同じ会社に勤めていたり、また仲の良かった友人がその職場で息子の上司だったことが分かったりで大変盛り上がったが、担任の旦那さんが病気療養中と言うことが心配である▼高校のクラス会はまさに男子会であった。当時は恰幅が良く大きく見えた担任の先生は今70歳前であるが、病院通いの話をしていささか小さく見えた。娘さんは医療関係の仕事をしているので病院通いで知り合いがいることがどんなに心強いかと語っていた▼対照的な二人の先生だが中学校の担任の先生のように前向きで若さ全開の老後を送りたいものである。

（S・K）

病院総合医育成事業の参加概要

▽参加要件＝「日本病院会病院総合医育成プログラム基準」の理念に賛同し、〝病院総合医〟を養成することを自指す日本病院会会員病院で病床規模は問わない。

▽申込方法＝「育成プログラム申請書」「育成プログラム（カリキュラム）」「チェックリスト」の3点を併せて郵送・メール両方で提出。郵送書類には押印のこと▽送付先＝〈郵送〉〒102－8414 東京都千代田区三番町9－15日本病院会病院総合医育成プログラム申請書類在中」と記載のこと※書留など記録が残る方法で提出のこと〈e-mail〉sogoi@hospital.or.jp※メールタイトル（件名）には、必ず「育成プログラム申請」と入力のこと▽募集期間＝10月19日（金）まで▽問い合わせ先＝「病院総合医」係 e-mail:sogoi@hospital.or.jp

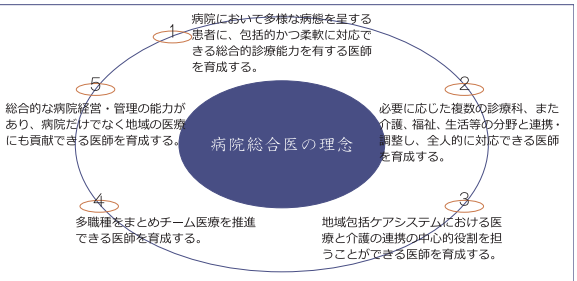
日本病院会認定 病院総合医

日病会員病院の皆様へ

育成プログラム申請のご案内

～育成プログラムの申請期間は 10 月 19 日（金）までです～

病院総合医養成までの流れ ▶ プログラムを作成 ▶ ●10月19日締切 プログラムの申請 ▶ 委員会による審査 ▶ （1月）プログラム認定 ▶ （2月）専修医を登録 ▶ （4月）研修開始



病院総合医とは
高い倫理観、人間性、社会性をもって総合的な医療を展開し、将来の管理者候補として期待される人材です。

参加要件
「日本病院会　病院総合医　育成プログラム基準」の理念に賛同し、「病院総合医」を育成することを目指す日本病院会会員病院。

詳細は http://www.hospital.or.jp/sogoi/ をご覧ください。　お問合せ：日本病院会「病院総合医」係 email: sogoi@hospital.or.jp